令和3年度　学校評価

教育目標

教育目標 校訓	知・徳・体を錬磨し、国家及び社会の限りない伸展に貢献するとともに、人類が築いた文化遺産の継承発展に資する心身ともに健康な日本人を育成する。 真理と正義を愛しひたむきに学ぶ若人 勤労と責任を重んじいつくしみにあふれる若人 心と体を鍛えたくましく生きぬく若人 つちかい　かがやけ	本年度の重点目標	向上させる教育環境の醸成 ○ 確かな学力を育む ○ 主体性、創造性の確立を図る ○ 自他尊重の心を育む

昨年度の学校評価

項目(担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題(◆が課題)
多忙化解消を推進して、心身ともに活力ある教育活動の推進 (全職員)	・教職員の勤務時間を適正に管理して、長時間労働による健康障害を防止するとともに、活力ある教育活動を推進する。	・安全衛生委員会を勤務環境改善の主体として、職員室の開錠施錠時刻、定時退校日、電話応対のガイドラインを順守する。	・本年度は新型コロナウィルス感染症に伴う臨時休業もあり、一年を通してさまざまな対応を求められたが、教職員の勤務時間の適正化については進めることができた。 ◆職場環境の整備は安全衛生委員会が主体となるが、本年度は充実した議論を十分に行うことができなかった。さらなる職場環境の改善に向けて安全衛生委員会を充実させたい。
学校行事の充実 (総務・特別活動)	・式典関係の充実 ・学校行事への生徒の積極的参加	・学校への帰属意識や連帯感を深めるため、式典の意義を理解しやすい運営を心掛ける。 ・各行事の際に、生徒会役員が主導して、議員、委員、実行委員を企画準備段階から活動させる。 ・学級内での役割分担を明確に行わせる。	・新型コロナウィルス感染拡大の状況に伴い、多人数が一度に集まる行事を全て放送によって実施した。今年度はこれで止むを得ないが、次年度以降に「通常の形態」で実施したときのノウハウが途絶えてしまわないかが不安である。 ◆学校行事に関しては、生徒の積極的な姿勢を見ることが多かったように思う。行事を通して生徒間でコミュニケーションをとり主体的に判断できる主体性・社会性を身につけさせたい。 ◆次年度も新型コロナウィルスへの対応が求められるが、現状を大きく変えることができる大きな機会と捉え、スクラップ＆ビルドを推し進めることを考えたい。
学習指導の徹底 (教務)	・学習習慣の確立 ・確かな学力の定着 ・新教育課程の編成	・学習時間調査を定期的に行い、家庭学習の状況を把握する。 ・成績不振者への学習指導の充実 ・公開授業を実施し、学校全体で知識や経験の共有化に努める。 ・新学習指導要領による教育課程を編成する。	・新型コロナの影響で２か月分の授業遅れが出た。その遅れを取り戻すために、授業はいろいろ工夫されて進んだが､生徒には家庭学習での負担をかけた。学習時間調査では､全体として休日は若干増えたが、平日は例年並みであった。学年・クラスによっては二極化しているところもある。 ・定期考査､学期末の評定で赤点該当者が増加した。特に、学習時間が不足している生徒に生活習慣を見直す声かけが必要である。 ・今年度は 10 月に１度だけ公開授業週間を設定できた。全教員に授業参観と報告書の提出を依頼し、授業力向上に取り組むことができた。 ・尾北地区教務主任連絡協議会で他校と情報交換ができたので、参考にしながら各教科と調整をして、本校の新教育課程の編成を進めることができた。
進路指導の徹底 (進路指導)	・進路に関する情報の整理と情報提供の工夫 ・生徒一人ひとりの能力や適性を生かした進路実現	・より複雑化する入試に向けて、分かりやすい情報提供をする。 ・補習、模試、土曜開放を通じて、入試に対応できる学力を養成するとともに、最後まで粘り強く入試を乗り切る自信を身につけさせる。	・令和３年度共通テストについては、様々な不安を抱えながら生徒のみならず、現場の教員も臨むことになったが、本番は特に大きな混乱もなく実施された。推薦入試に安易に流れる生徒も昨年度より少なかったのは、担任をはじめ、保護者や生徒に過度に不安にならないように助言できた結果であると思う。 ・昨年度より、補習の受講者が増加し、各教科講座数も増え、また、多くの先生方が積極的に土曜日も講座を開いてくださったこともあり、学校を頼りに学習に励んでいる生徒が増えたと感じる。補習・土曜講座の募集の仕方を変更した結果でもあり、引き

	・キャリア教育の充実	・大学、学部、学科を研究させ、将来どのような職業につながるかを理解させる。	続きより多くの生徒が参加する講座を開いていけるように、先生方の協力をお願いしていきたい。 ◆最近の生徒も保護者も安全志向であり、３年時に学力も思うように伸びていないと学校としての進路結果は出せない。１，２年生の間に授業・補習の受け方、模試の活用、大学選びについてより意識付けをする必要がある。保護者向けの説明会に外部講師を招いて、教員以外の口からも効果的に進路について幅広く考えてもらえるように力を注ぎたい。
生徒指導の徹底 （生徒指導）	・基本的生活習慣の確立と落ち着いた雰囲　気でメリハリのある学校生活 ・いじめの早期発見、適切な事案対処 ・交通安全意識及び交通マナーの向上 ・情報モラルの向上	・毎朝の校門指導や生徒への積極的な声かけにより、ゆとりのある落ち着いた学校生活を送れるようにする。 ・生活実態調査の実施により、いじめの早期発見、適切な対応につなげる。 ・交通安全講話、無事故無違反ラリーへの参加やＰＴＡと協力した立ち番指導などにより、交通マナーの向上と事故防止を目指す。 ・情報モラル講話を活用し個人情報、著作権の等の扱いに気を付けるよう注意を促す。	・気温が下がってくると徐々に 25 分に間に合わない生徒が増えたが年間通してみれば減少している。 ・生活実態調査の実施で、困っている生徒の把握を行い担任に面談してもらうことを中心に適切な対応に努めることができた。 ・誰かが見ていなくても交通マナーを守れるように、また交通マナーを守ることが自分の身を守ることにもつながることを注意喚起していきたい。 ・SNS 上に個人情報を載せてしまった場合などは、適宜指導できた。情報パトロールから上がってくる情報が主なので、拾いきれていない部分もある。
特別活動の推進 （特別活動）	・生徒議会の充実 ・より多くの生徒の、学校行事への主体的な関わり ・部活動の充実	・生徒議会を、議長・生徒会役員を中心として運営する。目安箱の意見も参考にしながら議論していく。 ・学校行事において、より多くの生徒が企画段階から関われる仕組みをつくる。 ・特別活動部と部顧問の連携を密にし、部活動の活性化を図る。	・後期生徒会では新しい活動を取り入れたこともあり、生徒議会を通して全生徒へ発信することに努めた。生徒会内では連携が取れたが、他の生徒を巻き込めるような働き掛けをさらに強化していきたい。 ・学校祭では全学年でクラス対抗種目や群団対抗種目を実施できた。生徒の社会性やクラス等の親睦を深めるため、さらに良い内容にしていきたい。 ◆感染症に関する対応で試行錯誤することが多かった。社会の情勢、学校の状態などを総合的に判断し、円滑な部活動運営を行っていきたい。また本校の生徒の実情も変化してきており、生徒たちは教員の指導をより必要としているように感じる。そのため学校として、今以上に教員が部活動の活動時間に活動場所に行けるような工夫、仕事の精査なども行っていきたい。
教育環境の整備充実 （保健）	・環境整備意識の高揚 ・安全で清潔な環境の維持と美化活動の推進	・校内の環境整備及び美化とゴミの分別・減量化を徹底する。 ・教職員、生徒全員による学校美化活動を充実させる。 ・痛んだ清掃道具の交換を行う。	・ゴミ回収時に呼びかけを行い、ゴミの分別状況は少しよくなった。毎日の全員清掃により、清掃がよく行われている場所がある。校内には、まだ、雑草が茂っている場所があり、改善されていない。 ◆今年度は、清掃点検を実施できなかったが、来年度は実施して、環境美化意識を高めたい。 ◆来年度に向けて、清掃道具を購入した。美化委員により、清掃道具交換を実施したい。
健康教育の推進 （保健）	・新型コロナウィルスの感染防止 ・事故、けが、病気等安全に対する健康管理能力の育成 ・メンタルヘルスケアの充実 ・健康観察の実施	・手洗い、うがい、換気、消毒を徹底し、三密を避けるように指導する。 ・生徒自身の心身の健康課題を理解させ、事故やけが防止の指導と事故後の早期対応を行う。 ・教育相談委員会を毎週行い、生徒情報を全職員で共有して、対応を考える。 ・朝のＳＴ時に健康観察を全クラスで実施し、不調な生徒の早期発見と生徒情報の共有に努める。	・新型コロナ感染防止対策として、マスクの着用、手洗い、換気を昼休みの放送で呼び掛けた。また、多くの職員の協力を得ながら、消毒作業も実施できた。昼食時に、対面にならないように教室の見回りも行えた。部活動や体育の授業時にもマスクを着用するように呼び掛けた。 ・心が不調な生徒が増えたが、担任、養護教諭、SC と連絡を密にして対応している。 ・教育相談委員会をほぼ毎週行い、不調な生徒の情報共有をしている。 ◆不調な生徒の情報共有だけでなく、対応策を考えていきたい。 ◆健康観察を毎朝行っている。その集約結果は、教育相談委員会や学年団に配布できていないため、来年度は配布したい。

読書指導の推進 **情報管理と運用** （図書情報）	・図書館利用の推 ・読書意識の高揚	・読書・学習の場として、図書館の積極的利用を推進する。 ・図書館の利用促進を、教科や学年会と連携して進める。 ・図書委員会活動を活性化し、図書館行事の充実を図る。	・アクリル板の設置、来館者の手指消毒、返却本の３日後の棚戻しなど、感染対策を行いながら開館した。昼放課には自習の３年生など利用者が多く、貸出冊数もあまり減少しなかった。今後もさまざまな企画をしてPR活動を行っていきたい。 ・教科や学年の学習のために愛知県図書館と連携し調べ学習の書籍を取り寄せる活動を行うことができた。 ・活発な図書委員会活動によって、図書館行事を充実させることができた。 ◆秋の読書週間で例年ほど来館者数・貸出冊数が伸びなかったので、より魅力ある企画を研究していきたい。
開かれた学校づくりの推進 （総務）	・ＰＴＡ総会の充実 ・学校見学会及び学校説明会 ・学校評価制度などの積極的活用	・新型コロナウィルス対策を考慮しつつ保護者からの意見を少しでも反映することのできる形態を心掛ける。 ・昨年度実施して良かったと思われる点は一層の発展をさせる。 ・学校評議員会、学校関係者評価委員会などでの幅広い意見集約に努め、学校運営に生かす。	・学校祭（バザー）やＰＴＡ研修会など密になる可能性がとても高い行事については今年度中止とせざるを得なかった。 ・学校説明会は今年度から総務部が主務となった。夏季休業中の学校見学会が中止となり、他校の同様な取り組みも中止となっていたことから参加者は、例年の２倍以上となった。 ・学校評議員会では授業を参観していただき、学校の状況を把握していただいたうえであたたかく有意義なご意見をいただくことができた。 ◆学校説明会に関して課題となる事項もあった。反省をして、次年度によりよいものとしたい。
第１学年	・基本的生活習慣の確立 ・規範意識を育む	・普段の課題や授業の取り組みを意識させ、基礎学力を定着させる ・校則にとどまらず、社会のルール・マナー・モラルを意識させる。	・年度当初に比べ、部活動と勉強の両立ができない生徒が多くなってきた。 ◆個人面談や学年集会を通し、２年生への自覚を持ち始め、学習時間が確保できるよう指導を続けていきたい。 ・多くの生徒は落ち着いた態度で学校生活を送ることができたが、一　方で特定の生徒が遅刻や欠席を重ねてしまうという状況であった。 ◆ルールやマナー、時間を守るなど、その都度指導をしていきたい。
第２学年	・生徒が安心して過ごすことのできる学年・学級をつくる。 ・生徒が意欲的に学習に取り組むことのできる環境を整える。	・問題行動や人間関係トラブルへの予防的生徒指導及び迅速な対応をする。 ・教室美化や持ち物の管理を繰り返し指導する。	・多くの生徒は落ち着いて生活をしており、学習に対しても意欲的に取り組んでいる。一方で、学習につまずきのある生徒や不登校傾向にある生徒への支援を今後さらに充実させていく必要がある。 ・教室や廊下の環境はおおむね良好だが、教室や廊下に私物の放置がみられるときがある。私物の整理整とんや記名の指導を重ね、持ち物をきちんと管理させたい。
第３学年	・規範意識の確立と公共心の育成 ・進路目標実現に向けた学力の強化と自主自律の精神の育成	・場をわきまえ、礼節を重んじる態度を養成する。 ・公平な判断力と思いやりの心を涵養する。 ・進路目標実現に向けた学習意欲の高揚を図る。 ・学力向上のための努力を継続する力を養成する。	・多くの生徒が、規範意識を持って節度ある行動ができるようになった。また、自己を律する心、他者に対する寛容の心が育ってきた。 ・進路目標実現のために、補習に積極的に参加したり、教員に質問に来たりして、自ら学力を向上させようとする姿勢がみられるようになった。その結果、多くの生徒が実力をつけてきている。
総合評価	・教育の ICT 化の進展が求められ、さまざまなﾂｰﾙを活用した授業改善が必要となる。授業、課題、自主学習に主体的に取り組ませるために授業改善や補習、土曜学習等の在り方について検討を進める必要がある。それに伴い、校務処理においても積極的な ICT 活用を推進していきたい。 ・大学入試ｾﾝﾀｰ試験に代わり、大学入学共通ﾃｽﾄ元年となった。本校の生徒の大多数が大学進学を志しており、今後もさまざまな情報を適切に伝え、生徒、保護者の要請に応えていきたい。 ・新型ｺﾛﾅｳｨﾙｽ感染症に関して、影響が長期化しており、来年度も何らかの対応に迫られることは避けられないと思われるが、今年度さまざまな事態に冷静に対応することができたように、来年度も適切に対応したい。特に生徒の心身の健康がもっとも大切であり、心身両面のｹｱに努めたい。		

学校関係者評価結果等

学校関係者評価を実施した主な評価項目	各分掌の重点目標及び具体的方策
自己評価結果について	○職員の多忙化解消を目的に職員会議等の回数を減らすなど、業務の精選や効率化を図ったが、課題も残った。安全衛生委員会を主体に労働環境の整備を進めたい。 ○新型ｺﾛﾅｳｨﾙｽ感染拡大下において多くの学校行事が中止または内容変更となり、例年とは異なる対応を求められたが、適切に対応できた。しかし、学校行事の継続性という点においては引継ぎを十分に行い、円滑に進められるよう留意したい。 ○進路指導においては共通ﾃｽﾄ初年度ということで職員も生徒もとまどうことがあったが適切に対応できた。今後も進路情報を適切に発信し、生徒の進路実現のために努力したい。 ○新型ｺﾛﾅｳｨﾙｽ対応については保健部を中心にさまざまな方法で注意喚起を行い、概ね適切に対応できた。今後も早期の終息は望めないので、地道に対策を続けていきたい。 ○学校全体としては落ち着いた学習環境となっており、生徒も穏やかに学校生活を送っている。せり生徒の可能性を引き出す指導を進めていきたい。
今後の改善方策について	○SNS の利用に伴い、生徒間のﾄﾗﾌﾞﾙも少なくない。BYOD の推進もあり、今後は SNS 利用禁止ではなく、適切に利用できるよう学校として指導していきたい。 ○性別を問わない制服の導入が求められてきており、検討を始めたい。
その他（学校関係者評価委員から出された主な意見、要望）	○学習指導においては生徒個々が主体的に取り組み、先生は個に応じたｱﾄﾞﾊﾞｲｽやｻﾎﾟｰﾄするようにしてほしい。 ○進路指導においても、「生徒自身の役割」「保護者の役割」「学校の考え方」の明確化と情報交換を行ってほしい。 ○教職員の多忙化解消の手立てとして部活動指導や環境整備などで外部講師等の導入を積極的に考えてはどうか。 ○学校から発信される情報をﾀｲﾑﾘｰに得られるｱﾌﾟﾘの導入は可能か。
学校関係者評価委員会の構成及び評価時期	○学校関係者評価委員会の構成 学校評議員（清須市教育委員、清須市内中学校長、前 PTA 会長、地域代表、同窓会役員）、現 PTA 会長・副会長 ○評価時期 令和３年２月１２日（金）に実施予定であったが、書面での評価実施となった。